

令和5年度 第1回野洲市社会教育委員会議

日付	令和5年6月23日（金）
時間	13時15分～15時15分
場所	人権センター交流研修室
参加者	<p>【出席】高木 和久、駒井 朔男、中出 雅仁、福森 恵子、木村 恵理、鷺田 新介、西川 典子、小澤 郁乃（委員8名）</p> <p>西村教育長、北脇教育部次長、行俊教育部次長、宇都宮図書館長、山本人権施策推進課長、大岡文化スポーツ振興課長、小山文化ホール館長、中川スポーツ施設管理室長</p> <p>生涯学習課：井狩課長、菱沼参事、岡山技師、田中主事（事務局12名）</p> <p>【欠席】光永 智（委員1名）</p> <p>馬野教育部長、井関教育部次長（事務局2名）</p>

概要	
<p>【1.開会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本会議は議事録及びホームページ掲載のため録音・写真撮影されており、公開とする。 <p>【2.教育長あいさつ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月23日は沖縄慰霊の日、78年前に日本軍による戦闘が終わった日である。 <p>生涯学習の推進は平和のために大きなウェイトがある。新しいやり方や取り組みが始まっているということを考えながら、第2期生涯学習振興計画の最終年・第3期に向けて進めていきたい。</p> <p>【3.議事】</p> <p>(1) 野洲市生涯学習振興計画（第3期）について</p> <p>〔委員長〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の方向が変わっていくなかで、福祉を教育の中にどのように織り交ぜていくか。学校教育と社会教育をどのように繋げるのか。それが生涯学習である。縦割りでは隙間があるため、連携・協働が必要になる。私たちに何ができるのか、今年精一杯行ってみて課題を報告することになるだろう。 	<p>2.第2期野洲市生涯学習振興計画のこれまでの検討の経緯（資料3ページ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学ぶことが活かされる仕組みづくり」として、各課の取り組みを紐づけして推進してきた。 <p>・資料2</p> <p>5年間の実施状況である。評価値について「A＝目標以上」「B＝目標通り」「C＝目標の一部が達成できず」「D＝目標達成困難な課題があった」となっている。</p>

- ・「市民が自ら学ぶ環境づくり」(②・③ページ)
 - ・「図書館」は、ニーズに応えた知る権利の保障を行ってきた。
 - ・「文化財保護課」は、展覧会や講演会を通じて学習の機会や情報を提供してきた。
 - ・「人権施策推進課」は、市民の差別をなくす取り組みを行っている。コロナで中止された講演を新たな形で行っていくことになる。
 - ・「文化スポーツ振興課」は、各団体と連携して学習の機会を提供してきた。

- ・「学ぶことが活かされる仕組みづくり」(⑤・⑥ページ)
 - ・「文化財保護課」は、体験学習を通して学校と連携しており、この活動は今後も必要である。
 - ・「生涯学習課」は、地域子ども教室で多世代の交流の場を作っている。

- ・「学びを通じてつながる機会づくり」(⑦・⑧ページ)
 - ・「図書館」は、ボランティア団体等の自由な活動のために、学校・図書館・地域のコミュニティセンター等と連携してきた。また、市内のふれあいサロン等で、出張貸出等を行い、他の施設との繋がりを持ってきた。
 - ・「人権施策推進課」は、研修会等の支援を行ってきた。継続した働きかけが必要である。
 - ・「文化スポーツ振興課」は、各関係団体との連携を行っている。
 - ・「生涯学習課」は、学校応援団等の活動を通して地域住民や保護者が積極的に子どもの教育に関わる機会を作っている。

3.上位計画等の整理

(資料4ページ)

- ・第2期野洲市生涯学習振興計画から取捨選択を行い、第3期計画を立てていく。また、「野洲市の関連計画」にある《子ども・子育て関連》《読書関連》《文化・スポーツ関連》《人権関連》の4項目で連携をとる必要がある。

(資料5ページ) 野洲市総合計画

- ・野洲市総合計画から、生涯学習振興計画と深く関わりのある「子育て・教育・人権」「(産業・観光・)歴史文化」「市民活動(・行財政運営)」施策の各項目について、連携をとりながら作成する。

(資料6ページ) (国)：第4期教育振興基本計画

- ・コロナ等の環境の変化により将来の予測が困難な時代において、持続可能な社会を維持・発展させていく。
- ・社会課題の解決を、経済成長と結び付けてイノベーション(技術革新)につなげる取組等、活力ある社会の実現に向けて「人への投資」が必要である。
- ・野洲市にふさわしい取り組みをしていかなければならない。

(資料7ページ) 日本社会に根差したウェルビーイングの向上

- ・ 幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるための教育の在り方。多幸感、学校や地域でのつながり、自己肯定感等が含まれる。
- ・ 障がいのある人が、障がいのない人と共に学べるような教育等、多様なニーズへの対応や地域社会の国際化への対応、ICTの活用による学び・交流機会のある教育を推進する。
- ・ コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進、家庭教育支援の充実、生涯学習を通じた自己実現を推進する。

(資料9ページ) (県) : 第3期滋賀県教育振興基本計画 (※R5年度までの計画)

- ・ 未来を拓く心豊かでたくましい人づくり
- ・ 人生100年を見据えた「共に生きる」滋賀の教育



(資料12ページ) 次期(第4期)滋賀県教育振興基本計画の策定に向け

- ・ 滋賀県教育振興基本計画審議会へ諮問

4. 現行計画策定以後の情勢の変化

(資料13～16ページ)

- ・ SDGsの17の目標のうちでも、「4.質の高い教育をみんなに」は欠かせないものである。
- ・ ほかにSDGsの目標のうち、生涯学習・教育に関係するものとして、「11.住み続けられるまちづくりを」で生涯学習や社会教育施設の利用・整備施策が、「17.パートナーシップで目標を達成しよう」で学校・地域・企業との連携施策が行われている。

(資料16・17ページ)

- ・ リカレント教育の重要性が高まっている。
- ・ 生涯学習…豊かな人生を送るために学ぶ
- ・ リカレント教育…仕事で求められる能力を磨き続け、自己実現につなげる
- ・ これまでは社会や教育の在り方が単線的であったが、寿命が延びてそれらが転換している。これがリカレント教育の重要性が高まる背景にあると考えられている。

(資料19・20ページ)

- ・ 「Society5.0」は、仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会課題の解決を両立する、新たな未来社会のことである。ここでは想像力により問題解決を図っていくことになる。

5. 第3期生涯学習振興計画の基本的事項の検討

(資料 21 ページ)

- ・ 基本理念 (現行計画)
「一ひとりが大切にされ、おとなも子どもも学びあうひとづくり・まちづくり」
- ・ 基本目標 (事務局案)
「1. 誰もが学べる環境づくり～すべての市民に開かれた学習環境の整備～」
「2. 学びを進める環境づくり～時代の変化に応じた学習能力を身につける生涯学習～」
「3. 学びを生かす環境づくり～つながりと交流の生涯学習～」

(資料 22・23 ページ)

- ・ 第3期生涯学習振興計画策定スケジュールについて、素案の確認は1月中旬予定をしている。
- ・ 次回の審議内容は「施策体系の検討」を予定しており、現行施策の評価及び新たな施策等を踏まえて検討する。

(2) 意見交換

【主な意見等】

- ・ まず課題が何かりサーチし、実際に実践して到達できる目標にする。
計画を各課に渡して終わりにするのではなく、各課で調整する必要がある。
 - ・ 地域教育について、高齢化やコロナ等の問題もあり、コロナ等で動いていなかったものを動かすのは大変である。地域の人と人のつながりも含め、どうしていくのか。
 - ・ 中学生の高齢者に向けたコンピュータ教室等、学び直し・地域との繋がりになるものをしていきたい。
 - ・ 健康のために、高齢者も子どもも生涯スポーツはやらなければいけない。
 - ・ 中学生の職場体験を受け入れていない企業は沢山あるが、数人グループで見学・取材して学校で報告させてはどうか？ 子どもたちが市内の企業を知るようになる。いずれ就職する時に繋がるのではないか。
- 地域と学校が係わることで学び直しの機会にもなり、身体づくりや心づくりもできる。部活動も地域化していくなど、様々なことが繋がっている。【委員長】
- ・ 受け手側と与え手側のミスマッチがある。したら良いこと・してあげたいことが沢山あっても、なかなかできない。本当にためになっているのか？
 - ・ 近年は状況変化も早く、コンパクトに1番大切にすることは何かを決めないと、広げたものが回収できなくなる。
 - ・ PTAは他市町村でも減少している。本来は仕事をしながら定年後にかけて地域を手伝ったりしていたが、定年の延長等でこれまで通り地域に参加できなくなっている。学校の先生が全て(活動の)段取りをして、主体的な活動をさせずにきた。目的ではなく、方法だけが議論されている。
- #### 【委員長】
- ・ 働き方が変わり、老人会や自治会も入っている時間がないからと加入者が減っている。行政は自

治会に頼っているのか、壊れたらどうしていくのか。

- ・子どもを育てていこうと思ったときに、子育てすらも「学校や地域に」との声がある。子どもたちは自分に目を向けてくれる人に飢えているのではないか。家庭では家事も教えてもらえないこともある。
 - ・夏祭りや地蔵盆の中止等、子どもたちの成長の機会を奪っている。ひとりひとりの子どもたちを認めて、できることを伸ばす計画にしたい。
- ・次世代育成はリカレント教育でもあり、小さなグループを展開することで人を良く知り、人間力を高めるのがコミュニティのねらいである。【委員長】

- ・子どもたちはプールの着替えに時間がかかったり、脱いだ服を畳む習慣もない。
(ボランティアに)「ここにいて」と言ってきたり、人に飢えている。
- ・学校の受け皿としての役割は限界がある。しんどい子を真ん中に置くと、横に置いておかないといけない子が出てくる。そういう時に受け皿に誰になるのかというと、市民の手が必要になる。
→・近年で「障がい」というものが変わってきた。難しい言葉が沢山出てきているが、それらは総じて「子どもが生活していくうえで必要なこと」である。
今までは大人・子ども共に暗黙の了解で対応してきた子どもたちも、それが分からない子もいる。しかし、様々な項目を分けすぎて自滅しているところがあるようにも思われる。【委員長】

- ・文化施設統合に関する市民懇談会に参加した市民は3人と少なく、市民の文化に対する熱意が無く愕然とした。
- ・文化芸術祭など、市には加盟団体に限らず広く若い人も参加できるように努力してほしい。加盟団体のみの発表の時代からは変わっている。
→・社会教育団体もそのような状況が沢山あり、衰退していく。課題の中でも重要なものかもしれない。行政だけに任せてもできないだろう。【委員長】

- ・学校運営協議会に参加するようになり、学校でどのようなものが重要視されているか少しずつ見えてきた。
- ・図書館が駅のボックスを始めたことで(環境づくりは)ステップアップできたのではないか。
- ・(資料 21 ページ)「2. 学びを進める環境づくり」という点で、「職場体験ができる場所がない」という問題がある。子どもたちとかかわる機会があまりなく、地域として受け入れて子どもたちを見ると、大きな成長を感じることができる。受け入れ先を増やしていきたい。
- ・生涯学習カレッジで地域の方とかかわるようになった。ホームページや冊子の活用で発信し、「住みたいまち」へしていくことができれば良いのではないか。
- ・これからは単に「行政がやること」で収まらず、様々なことができれば良い。地域で学びの場がないことが課題である。

- ・ 職場体験を受け入れるなど、町に貢献するところで名前を出すと企業の信頼性が出るため、市の協力企業一覧はとても良い宣伝になる。もっと宣伝・協力していくと良いと思う。
- ・ (資料 21 ページの) 3つの基本目標はどうか。個人の考えであるが、「環境」は「人・物・金」であると思う。次回に整理して持ち寄る形で良いだろうか。目標をどうすると良いか考えていただきたい。
- ・ 現行計画の「大人も子どもも」の部分は「みんなで」が良いのではないか。
- ・ 次回素案を出せるように、3グループに分かれて分野・テーマを詰めて発表しあうのも良いかもしれない。

【その他】

- ・ 近畿地区社会教育研究大会の案内について